

## H23 年度科学・技術関係予算概算要求 個別施策ヒアリング

【施策番号 26101：地域活性化のためのバイオマス利用技術の開発（農林水産省）】

- 1 日時：平成 22 年 9 月 28 日 : 16:00 ~ 16:20
- 2 場所：中央合同庁舎 4 号館 2 階 第 3 特別会議室
- 3 聴取者：相澤議員、本席議員、奥村議員、今榮議員  
外部専門家 7 名（うち若手 1 名）
- 4 説明者：農林水産省農林水産技術会議事務局 橋本政樹 研究開発官 他
- 5 施策概要

食料供給と両立する低コスト・高効率なバイオマス利用技術を開発することにより、温室効果ガスの排出削減を推進するとともに、農林業におけるエネルギー自給に必要な技術を開発することにより、再生可能エネルギーの生産・利用を推進する。農山村の農林業生産において使用するエネルギーを地域の再生可能エネルギーで自給できるシステムの構築に必要な技術を開発する。

### 6 質疑応答模様

< 社会還元加速プロジェクト該当部分 >

【本席議員】

予算の施策全体における配分はどうなっているのか。

【農林水産省】

施策のうち 1 . 低コスト・高効率なバイオ燃料生産技術の開発部分は 8 億円であり、具体的には(バイオマスを低コスト・高効率にバイオ燃料に変換する技術の開発)(安価なバイオマス原料の調達を可能にする作物育成・栽培・収集技術などの開発)に充てる。

2 . バイオマテリアル製造技術の開発部分は 1.2 億円であり、(革新的な CO2 吸収バイオマスの利用技術の開発)および(バイオマスマテリアル製造技術の開発)に充てる。

アクション・プラン該当部分は、農林業生産におけるエネルギー自給に必要な技術の開発で 3 億円を充てる。

【奥村議員】

ガス化・バイオオイル化はいずれも社会還元加速プロジェクト部分か。

【農林水産省】

ガス化は社会還元加速、直接油化はアクション・プランを想定している。

【奥村議員】

ガス化・バイオオイル化は科学プラントレベルの規模である。

この規模領域の設計は石炭のオイル化などで経産省が経験している。プラントを上手く動かすためにはノウハウがいる。府省連携でやるべきである。

ところで、環境省は原料である廃木材について逆有償制度を考えているが、農林水産省で

は林地残材に関して逆有償を適応することを考えているか？

【農林水産省】

廃木材については、産業廃棄物など、ごみとして扱われるものであるため、逆有償という考え方にも理がある。一方で、林地残材は放置してもごみではないので逆有償の対象にはなりにくいと考えている。

【外部専門家】

木質バイオマスの分野では林地を整備することが重要である。林業再生と本施策を、どのようにリンクさせるのか？

【農林水産省】

林業再生のために、林材を如何に安くするかということを検討している。

山から原木を切り出すために高性能機械で低コスト運搬を可能にしておいて、林地残材についてアクション・プランで開発する技術を適応することを考えている。

<アクション・プラン該当部分>

【相澤議員】

農林水産省は立ち位置を明確にしている。環境省と原材料の供給について議論しておくこと。13P バイオエタノールのコスト目標値は高いが、オイルとガス化に力点を置き、バイオオイルは現地で使用できるのでここに力をいれたいという理解でいいのか？

【農林水産省】

バイオエタノールについてはガス化経由でもおこなうことを考えているが、これがコスト的には良い線に行く可能性もある。経済産業省と協力して進める必要もあると考えている。

【外部専門家】

農林水産省は具体的にどのくらいの量が貢献できるのか？5 t /日程度の貢献は少ないのではないか？

【農林水産省】

林地残材の利用率は2020年までに30%まで掲げていく予定。

以上